

ふるさと上越ネットワーク会報

NO **15** 2003.7



平成15年度 ふるさと上越ネットワーク総会開催

五月二十四日、アルカディア市ヶ谷（東京都千代田区九段北）において、会員約九十名が参加し、平成15年度ふるさと上越ネットワーク総会が開かれた。

引き続き行われた意見交換では、活発な意見が出されました。

総会では、太田会長の挨拶、（次頁に詳細を掲載）平成十四年度事業報告、決算報告、平成十五年度事業計画、予算について審議され、役員の一部改選を含め、全ての議案が承認されました。



理事会開催

総会に先立ち、理事会が開催されました。



会長挨拶

Jネット会長

太田四郎

(本町五丁目出身)

ただいまご紹介いただきました、太田でございます。ちよつと声をからしておりますので、お聞き苦しい点があるかと思いますが失礼いたします。

本日は、ご多忙の中、平成十五年度の総会にご来賓を始め、多数の会員の皆様方にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。開会にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

ふるさと上越ネットワークにつきましては、平成九年発足以来、おかげさまで満六年を経過いたしました。七年目を迎えることになります。七回目の総会でございます。

この間、皆様方のご協力によりまして、各事業の内容も充実してまいりました。特に年二回の会報、あるいは、毎月のJネットだよりにつきましては、編集関係の皆さんの積極的な紙面づくりにおきまして、会員からも投稿や生の声が盛り込まれまして、親しみ深いものになっており

ます。また東京を始め、各地のJネットサロンにつきましては年を経るに従いまして次第に盛況になり、参加の皆さんも増えておりまして交流の場が広がっている次第でございます。

今後につきましては、より積極的に、ふるさと上越の豊かな将来のまちづくりに役立つ提言、あるいはそれに関する新規事業を行うことを考えております。

Jネットにおきましては、ふるさと上越へのまちづくりの協力ということがひとつの大きな使命でございます。「灯台下暗し」という言葉がございますが、地元におりますと当たり前と思つていても多いわけでございますが、外に住んでいる人から見ますと意外と思われることが多くあります。したがひまして、外からの提言がおおいに役立つこともあるのではなからうかと思われ、ここが上越ネットワークの皆様方の使命の發揮しどころだと思つております。



このようなことから、やはり、会員の皆さんが、現在お住まいのところの最新情報を発信していただくこともこれからは大事なことでないかろうかと思つております。私事になつて恐縮でございますが、現在名古屋におるわけでございますが、二年後に愛知県では今世紀最初の世界博覧会が開催されることになっております。名誉会長が皇太子殿下ということで、内閣総理大臣も昨年の十月においでになり、国を上げての博覧会でございますが、100カ国以上が参加し

まして、世界の人々が大交流をする。そして、皆で地球を大事にしようというのがテーマでございます。そして、愛知県にちなみまして、「愛・地球博」というのが愛称となっております。で、この九月から前売りが始まるという状況でございます。



この世界博のPRのために私も愛知県知事のほうから「愛・地球博・ふるさと大使」というのを委嘱されておりました、新潟県関係の会合その他についておおいにPRしてくれと、いうことになっております。したがって本日も総会資料の中に「愛・地球博」と言うパンフレットを入れさせていたしておりますので、ぜひ二年後には「愛・地球博」においてになられて、世界各地の文化、あるいは芸術、そういったものの知見を得られまして、いい情報を発信していただければと存じております。

話が前後して恐縮でございますが、最近、Jネットの会員数が残念ながら減少傾向にございます。会員数はJネットにとりまして、発展の大事な要でございます。毎度お願いいたしておりますが、お知り合いの方々にご紹介いただくとか、あるいは同窓会、その他の集まりでJネットの入会をお誘いいただくなど、ひとつご協力のほど、お

願い申し上げたいと思います。

本日は年一度の総会・懇親会でございます。世の中非常に不況の最中でございます。非常に暗い話題の多いこの頃でございますが、ひとつ、Jネットのきずなで結ばれた皆様方が、同じ言葉で気心の知れた間柄で、今晩は明るくお過ごしただければと存じております。

最後になりましたが、ご参加いただいた皆様のますますのご健勝・ご活躍、そして、合わせてJネットの発展を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございます。



来賓祝辞

上越市長

木浦正幸

皆様方、こんにちは。ただいまご紹介にあずかりました、上越市長を務めております木浦正幸でございます。理事会には何度か出席させていただきましたが、総会には初めてということ、若干、自己紹介をさせていただければ幸いかと思っております。

昭和二十七年生まれで、ちょうど五十になっただばかりでございます。直江津高校、日大出身でございます。住まいは直江津地区の国道8号線沿いにございます。

活動としては、青年会議所活動を十三年間ずっとやってまいりました。そして一番最後に、北陸信越の六千五百名の会長に就任させていただきました。ちょうどその時に、前の県会議員でおられました古川渉先生がお亡くなりになりまして、青年会議所の会員の時に上越市の県議に当選し、三期務めさせていただきました。そして、十三年の十月の選挙で市長に就任させて

いただいたわけでございます。

職業と申しますか、保育園の園長を務めておりました。そういう意味では、普通の庶民として市長に就任いたしました。生活者の視点で市政を変えていきたいということで立候補しまして、当選をさせていただいたわけであります。

以来、一年半、市長に就任しておりますけれども、県議とは違いまして、なかなか充電の期間がないということを感じております。

時代が二十一世紀に入りまして三年経つていますけれども、やはり、時代が変わってきているということをも市民の皆さんにお伝えしながら、「主役は市民である」という市民中心、市民本位の市政を展開していきたいということで、スタートを切らせていただきました。

さて、今日は一年に一回の総会ということでご盛会を心からお喜び申し上げる次第でございます。今年の四月十一日に、ふるさと交流会で二

十数名の方が高田の観桜会においてになりました。私もその会に出席させていただきました。おかげさまで観桜会も、近年、大勢の人においていただいております。とりわけ今回につきましては、善光寺のご開帳の時期とちょうど重なりまして、七十六万人の観光客を数えることになりました。富山や金沢、関西方面からもバスで大勢の方においていただきました。観光バスが一〇三台という、いまだかつてない大変な賑わいでございます。今後とも、上越の個性・特性を活かした地域づくり、まちづくりにぜひ力を入れて参りたいと思っております。

最近の大きな動きといたしましては、市町村合併でございます。おかげさまで、現在は任意合併協議会をいったん終了し、法定合併協議会に進む準備会ということで、その準備会を開催し



ております。

十四市町村ということでその内訳を申し上げますと、東頸城からは四市町村。松代町・松之山町は十日町との合併を協議されています。中頸城郡からは妙高村・妙高高原町を除いて、八町村。そして西頸城郡からは名立町。これらと上越市を合わせて十四市町村になります。

人口に関しては、現在の上越市の人口は十三万五千人でございますが、これがめでたく合併となりますと、1.6倍の二十一万千八百七十



人ということで、いよいよ二十万人を突破いたします。面積で申しますと、今の⁹倍、249・3平方キロメートルが972・63平方キロメートルということで、全国的にも大変大きな面積を所有する都市となります。

合併方式につきましては編入ということで、十三町村が上越市に行政サービスを合わせていただくというやり方でございます。

今のところ、平成十七年の一月一日を目標にしながら合併してこうということに決まっております。

それから、今まではどちらかと言いますと、この中山間地域はコストがかかって、お荷物であるというような言い方がされておりました。しかし、21世紀はそうではなくて、この森林資源、山間地を宝物にしていかなければならないということで、私も提案させていただいております。

つまり、森林の保水能力です。上越地域は全国にも大変珍しい、飲み水が足りない地域でございます。平成六年の渇水期には、市民の皆さんに大変ご難儀をおかけいたしました。そういう意味で、森林資源に手を加えて、今の針葉樹を中心のものを落葉樹や広葉樹に植え替えることによって、保水能力を高めていく。そうして、森林をもう一度立ち直らせていくということでございます。

また、CO₂の排出削減、これも叫ばれております。京都議定書の約束でいきますと、もはやCO₂の

排出削減が売買されるような時代になっておりますから、ぜひそういった意味で、森林や水、これを資源として活かしていきたいと私は提案をしております。

また、先ほども会長からお話ございましたように、現在、経済状況がなかなか厳しいわけでございます。自治体としてもまったく同じ状況で、そういう意味では、もう一度原点に立ち返る、つまり産業振興が重要となつてきます。それぞれの中小企業の皆さん、民間の会社の皆さんに、しっかりと金儲けをしていただけるような、そういう産業振興を通して、民間の方々が投資しやすいような環境を役所がつくっていく。このことによつて、経済活動が盛んになっていくようにということを前面に打ち出しまして、自主財源を作っていくことが重要でございます。

今、小泉改革が叫ばれておりますけれども、実質といたしましては、権限は委譲されております。



すが、財源が一緒ではないということから、地方の自治体が自治体運営をしていくには、大変厳しい状態でございます。やはり自分で稼げる財源、つまり自主財源をしっかりと確保できるようなしなかけ・仕組み、これをとっていかねければ、持続して発展するような自治体運営はできないということから、産業振興を一番の大きな柱にさせていただいて、この行政が民間の方々を支援していくということで頑張らせていただいております。

その中で水素ガス、燃料電池のことは皆さんご存知でいらつしやいますが、水素ガスを木屑や廃材から抽出いたしまして、燃料電池にしていこうということで、商工会議所青年部がそのバイオマス研究をたちあげて頑張っているという状況です。

今年一月にアイスランドの首相が来日されました時に、私も寄せていただきました。現在、アイスランドも国を上げて、水素ガス、燃料電池の研究をしておられます。そこで、上越が手を上げて、大変タイミングがよかったのですが、アイスランドとともに研究開発をしようということで、新しい産業もおきてきているところです。そういったわけで、持続的に発展していく地域を作っていくために、産業振興というものに力を入れて頑張っているところでございます。

それから、なぜひ市町村合併なのかといった時

に、この地方自治をしていく中では税収が上がついていかない。国からの交付税や補助金が削減傾向である時に、将来展望した場合、近隣の町村から立ち行かなくなるという状況が予測できます。上越だけで単独で成り立っていくことは可能ですが、しかしながら、頸城平野は一体になつております。通学、ショッピング、それから施設の利用、病院利用率、そういったものすべてを見た場合、その周辺の町村の方々の存在を無視して、上越だけで成り立つというわけにはいかない状態となっております。

そういう意味では、遅かれ早かれ、立ち行かない状態がきた場合には、上越市にも影響は来るということ、むしろそういう状況なのであれば、先取りをして、体質強化・体質改善をしていったらどうかということで、私は提案をさせていただいております。

そういう意味では、皆様方をいつでもお迎えできるような、持続的に発展していく地域を、ぜひとも作ってまいりたいと思っておりますので、先輩諸兄の皆様方におかれましては、陰に陽にお手伝いをしていただければありがたいと思っております。

ちょうどまた、皆さんの事業でまちづくりの提言支援活動をしていただいております。各種の委員会でも数多くの提言をいただいておりますけれども、ふるさとを離れてみるとその良さに気づくと言われておりますが、そういう中で、

今の二十一世紀の時代こそ、地域の特性・個性、これを活かしていく時代がきているのではないかと思っております。皆様方の貴重なご提言を、ぜひとも引き続きお願いをしてまいりたい、そしていつでも、皆様方に帰ってきていただけるふるさとが光り輝けるように、これからも誠心誠意、作らせていただきたい、こういうふうにいる次第でございます。

最後に、このJネットのますますのご発展と、そして会員の皆様方のご健勝を心からお祈りを申し上げます、私の一言のご挨拶に代えさせていただきますたいと思います。本日は誠にありがとうございました。



意見交換会

太田会長： せっかくの機会でございます。インターネットのご意見・ご提案、また本日はわざわざ木浦市長がお見えになっておられます。ふるさとのまちづくりに關してのご意見やご提案などございましたら挙手の上、ご発言いただきたいと思ひます。六時十五分までもう二十分ほどございますがよろしく願ひいたします。

青田川にとんぼを・・・

安藤さん： 東本町三丁目の出身で、現在さいたま市におります、安藤でございます。たまたま機会がありまして、四年ほど前に東京都の一周、それからつい最近前橋と高崎の上空をずっとヘリで見える機会がありました。それを見て、はじめは面白いと思つてわくわくしたのですが、いずれも住宅砂漠でございます。こ

んなに惨めな格好になるのかと、しみじみ悲しく思ひました。高田でも特に山麓線の西側のほうに住宅開発が進んでいるようだけれども、ああいうふうな砂漠にならないようにご配慮願ひたいと思ひます。それから、青田川でございますけれども、今の青田川はただ水を流しているだけで、あれではとんぼも何も住みませんので、岡村さんの提案のように何メートルごとに堰を作つておけば清水帯ができますので、とんぼは必ず住めると思ひます。そういうふうなことをぜひ願ひしたいと思ひます。以上でございます（拍手）

高橋部長： この四月に企画部長になりました高橋でございます。若年者でございますが今後ともひとつよろしく願ひいたします。今ほどのご要望につきましては、関係部局をはじめ、意を尽くして

我々のほうも検討させていただきたいと思ひますのでよろしく願ひいたします。

三浦課長： 今のお話につきましてはまず、第一点のほうの高田山麓線の西側の住宅の開発が、今のお話のとおりです。市「上越」ということで、当然これまでも豊かな自然環境をどう生かして、これからのまちづくりにつなげていこうかというところで取り組みをすすめております。今お話がありました、これは例えのお話かと思ひますが、住宅砂漠というふうなことになるように、さきほど市長からお話がありましたように、



いつでも皆様方がお戻りになられた時にも、またゆつくりとお戻りになつていただけるようなまちづくりというものは、これからもすすめていきたいと考えております。

それから、青田川のほうにつきましては、これまでもさまざまな取り組みをすすめております。たとえば桜を植えたり、河岸の整備につきましても、これまでの一律的な河岸整備ではなくて今お話があつた、生き物が生息できるような形で取り組みを進めております。その辺のところは先ほど部長からお話がありまして、ように、ご意見をいただいたということで担当のほうにも伝えていきたいと考えております。

太田会長： 安藤さん、今のご回答よろしいですか。青田川のことでは何かご提案はあるんですか。

安藤さん： それが、今眺めておりますと、ただ水が流れているだけで非常に殺伐としております。あれをなんとかやっていたきたいと思うのです。

木浦市長： 最初から私が答えておればよかったのですが、大変失礼をいたしました。

青田川を愛する会という会もありまして、皆様方が一生懸命、川を単なる水が流れる川ではなくて、今のご指摘のとおりになつていこうということでございます。

す。しかし、途中で放水するために分水をつくりましたので、なかなか水が少ないうことがございまして、やはり、そこがネックなんだらうということで私も聞いております。徐々に今、うちの課長が申し上げたとおり、桜を植えたりして、その堤防を通るのに朝晩、散歩をされる方が非常に増えてきているということで、少しずつ、川の中も昔のように戻っていくようにと、皆さんの意見もございまして、その方向で行こうと思っ

ているんですけれども、なかなか基本的には皆さんの水が流れる川ではないということ、非常にそういったところで難しい点も出てきているのかなとは思っております。おおむね、そういう方向で青田川を愛する会の皆さんとともに、いろいろなアイデアを出して、また子供たちとともに、小学校の方が中心になりながら、たくさん意見を出していただいているようにございまして、そういう方向で頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく願います。

太田会長：その他せつかくの機会でございます。はい、どうぞ。

火力発電所の見通しは？

松平さん：黒井出身の松平でござい

ます。私の家の裏が今、火力発電所ができて

いるのでございまして、私はこ

の会に入ってまいりましたのは、火力発

電所がどのようになっているのかお聞き

したいと、そういう動機で入りました。

どの辺までですんでいるのか市長さんと

会長さんにお聞きしたいと思ひます。

太田会長：いやいや、私、会社辞めた

もんで：（場内笑）。

木浦市長：会長さん、直接の担当の会

社でございまして、会長さんからお話

いただければと思うのですが辞められま

した、ということございましてから。

ちょうど、昨年の十月三十一日に三つ

の会社、つまり中部電力、東北電力、そ

して、ふたつの電力会社からつくられま

した、共同火力という会社が越市長の

ところへ運転開始建設の延期を申し入れ

てまいりました。一号機が五年。そして

三号機が八年ということ、それぞれ延

びてしまうということです。

要するに会社側の皆さんは、電力の自

由化ということから、株主の皆さんに説

明責任をしながら、会社の体質改善とい

うことで、そういう会社の方針を出され

たわけでございまして、通常の民間の会社と違

いまして、そういう計画のとおりによつ

てもらわないと、私も地域と約束をし

ておりますから、交付金のこととか、協

力金によっていろんな事業を計画してお

りますから、困るという話ですつとき

たわけでございまして。

ついでに、運転開始の時期は平成

22年に変わりはないんですけれども、建

設を前倒しにして開始していただく。す

なわち、平成十九年の三月に一年と五ヶ

月、建設時期を早めていただくというこ

とに決着させていただいて、交付金のお

金が下りてくるのが、その樋音が聞こえ

ないとかだめだということから、私も

そのような三つの会社にお願ひしてき

たところでございまして。

そういう意味では、平成十九年の三月

から建設を始めるということ、私も

も苦渋の選択といひますか、このまま

約束どおりにやっていたらいいとい

ひありますけれども、そうではないとい

う会社の事情を、苦渋の選択の中で選

択させていただいたということござい

ます。

そして、今ご懸念でございました、埋

め立てをしている工業地の埋め立てにつ

いては、平成十四、十五、十六の三カ

年で行うことは変わりなく今すすんで

いまして、後、二年、平成十五

十六と、だいぶ埋まっております

けれど、順調に進んでおります。

（略）

○その後も新幹線の開業時期についてな

ど活発な意見交換がされました。

（略）



アトラクション『ふるさと上越公演会』 丸山おさむさん（声帯模写）熱演

平成十五年度ふるさと上越ネットワーク総会終了後、会場をとなりに移し、アトラクションとして、「ふるさと上越公演会」と銘うち、上越市出身の声帯模写・司会の丸山おさむさんから「何事も模倣から、笑いとコミュニケーション」の演題で公演していただきました。



プロフィール

最高レベルのモノマネと笑いをテレビのモノマネ番組では物足りない方へ

出生地 新潟県上越市（大町5）
生年月日 昭和31年7月26日

家電メーカーのサラリーマンを経て素人コンテンツ番組で優勝。笑いの道へ。世相風刺を折込んだモノマネのレパートリーは200人以上、3オクターブの歌唱力で文化人・評論家にファン多し。

歌真似では史上初の文化庁芸術祭優秀賞受賞。

講演会・研修会・ディナーショー・イベントアトラクション・ブライダルで活躍中。

講演タイトル「何事も模倣から、笑いとコミュニケーション」

ショータイトル「モノマネでつづる戦後歌謡史」



懇親会

総会につづき、懇親会が開催されました。
今井副会長の挨拶のあと、野口相談役のご発声で
乾杯により懇親会に入りました。

おめでと〜ございます
ふるさと抽選会

★★★★豪華抽選会賞品★★★★

☆岩の原ワイン……………5人

☆雁木通り米5kg……………2名

☆くわどり湯つたり村宿泊券…2人

☆くわどり湯つたり村利用券…2人

★★★★利き酒コンテスト賞品★★★★

☆4種類の地酒の利き酒

雪中梅（720ml）………3名

★★★出席者全員へのおみやげ★★★

☆エスビーカレー

（エスビーガーリック食品（株）様より）

☆こんぶ野沢菜漬け
（JAえちご上越様より）
☆正善寺工房のフキ砂糖菓子





議事と平成15年度事業内容

◆議事

第1号議案 平成14年度事業報告

第2号議案 平成14年度決算報告

同監査報告（水嶋監事）

第3号議案 平成15年度事業計画（案）

第4号議案 平成15年度予算（案）

第5号議案 規約改正

第6号議案 役員交代・退任

○大海敏男理事→大澤実理事（高田農業高校卒業生
会首都圏支部）

村田宏行理事→山岸孝博理事（上越青年会議所理
事長）

柳澤武治理事→小林春芳理事（えちご上越農業協

同組合代表理事組合長）

丸山義三監事→高橋稔監事

について審議され、全案件が満場一致で承認されま
した。

その後、予定時間を超過しての活発な意見交換が行
われました。

◆会員募集事業

会員目標 900人

（1）Jネットだより、Jネット会報等による募集

（2）平成14年度会員の継続加入の推進

（3）新規会員の募集

（4）複数年会員の募集

（5）会員名簿（追加分）の発行

◆広報事業

（1）「広報じょうえつ」の配布（月1回）

（2）「Jネットだより」の発行（月1回）

（3）「Jネット会報」の発行（年2回）

（4）「ふるさとカレンダー」の発行（12月）

（5）イベント情報チラシ、特別賛助会員からの告知

らせの送付（随時）

（6）ホームページの充実とリンクの拡大

◆交流事業

（1）第7回ふるさと交流（探訪）会

①時期 4月11日（土）～12日（日）

②参加者 26人

③内容 高田公園Jネット記念樹前に現地集合、
高田城址夜桜見学、桑取湯つたり村

、朝市、上越市埋蔵文化財センター見学、

「桜の木」オーナー事業植樹地の訪問、

岩の原葡萄園

（2）「Jネットサロン」の開催

①東京地区会場：毎月第2水曜日

運営委員会事務局を会場に、参加費千円

②地区別会場：1名古屋地区 2大阪地区

3長野地区で予定

地区別自主開催への支援（一人あたり千円の補助）

（3）ふるさと農業・交流ツアー

①時期 5月27日（火）～28日（水） 田植え

10月中旬 稲刈り

◆総会等開催事業

（1）総会 5月24日（土）アルカディア市ヶ谷

（2）運営委員会 毎月第2水曜日

（株）社会システム研究所内

（3）理事会 第1回総会開催日（5月24日）

第2回 平成16年1月

◆ふるさとのまちづくり支援

（1）市の各種委員会への参画

（2）文化公演会

（3）人材バンク事業

（4）蓮の種の配布事業

平成15年度 ふるさと上越ネットワーク予算

(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

■収 入

単位：円

科 目	14 年度決算額	15 年度予算額	差 引 増 減	内 訳
会 費	2,747,600	2,975,400	227,800	・個人会員 900 人 ③3,000×654 人 ②2,900×246 人 ・特別賛助会員 ⑤50,000×6 団体
負 担 金	1,315,500	790,000	△525,500	・総会参加者 ⑤5,000×100 人 ・ふるさと交流会参加者 ⑩10,000×26 人 ・特別賛助会員郵送物負担金 ⑩10,000×3 件
交 付 金	4,500,000	4,500,000	0	・市交付金
繰 越 金	727,511	1,640,836	913,325	
雑 入	20,331	764	△19,567	
合 計	9,310,942	9,907,000	596,058	

複数年入会費 預り金	複数年入会員 87 人（16 年度以降）	522,000	収入に見込まず別会計として管理
---------------	----------------------	---------	-----------------

■支 出

単位：円

科 目	14 年度決算額	15 年度予算額	差 引 増 減	内 訳
広 報 事 業	4,307,918	5,600,000	1,292,082	
会員募集 事 業	734,586	1,100,000	365,414	・入会案内チラシほか印刷 400,000 ・会員証印刷 100,000 ・消耗品など 200,000 ・通信運搬費（勧誘ダイレクトメールなど） 400,000
広報事業	3,573,332	4,500,000	926,668	・会報印刷 700,000 ・市広報購入（月1回/A4版） 900,000 ・ふるさとカレンダー印刷 800,000 ・レターヘッド印刷（たより用紙） 100,000 ・封筒等印刷 250,000 ・定期郵送物配達料 1,500,000 ・その他 250,000
交 流 事 業	1,265,449	1,950,000	684,551	・ふるさと交流会 500,000 ・講演会開催費 1,000,000 ・各地区サロン自主開催補助①1,000/人 200,000 ・負担金・消耗品 250,000
総会等開催 事 業	1,138,155	1,230,000	91,845	・理事会・総会開催費 350,000 ・懇親会開催費 850,000 ・通信費等 30,000
事 務 費	958,584	1,127,000	168,416	・通信費、手数料、消耗品など 287,000 ・J ネット運営委員会事務局費 840,000
合 計	7,670,106	9,907,000	2,236,894	

Jネット総会に思う

大和市
萩野重夫（東本町四丁目出身）

去る五月二十四にアルカディア市ヶ谷に於いて東京地区総会が開催され、太田会長様と上越市の木浦市長様よりふる里の発展の現状と今後の状況を色々とお話しして頂き、毎月の広報誌等で分らない所がよく分り、私達にとっては嬉しいではありませんか。

総会がとどこおりなく終了し公演会では声帯模写・司会等で活躍中の丸山おさむさん（大町出身）を迎えふる里の方言をまじえながら、色々な物真似を披露して頂き笑いの連続でした。なごやかな雰囲気のためやらぬうちに懇親会が始まり、謙信汁（のつべ）や笹寿司、それに煮もの等ふる里料理（正善寺工房さんの心がこもっている品々）と酒好きにはたまらない地元のワインにお酒などに舌づつみを打ちながら久し振りの知人と近況等を語り合いました。又ふる里抽選会に

一喜一憂し和気あいあいのうちに懇親会も終りに近づき春日山節（かちどき）を会場の人みんなで歌い来年の再会を約し盛況裡に終わりました。来年はもっと多くの会員が参加して一層盛会にしたいものです。一日も早く会員が一千人を超すように努めようと思ひながら帰途につきました。

最後になりましたが、役員の方々と市の企画課の皆様には大変お疲れ様でした。心からお礼申し上げます。



「運命の一球」

上越市Jネット事務局

関川正樹

私事になりますが、長男は今高校二年。野球に「バカ」になって毎日真つ黒になって帰宅しています。毎日夜九時一〇時の部活で、雑巾のようにクタクタで帰る姿を見ていると、親としては学業への心配はあるものの、本人が「今」打ち込めるものを持つ彼は、かけがえのない宝物を探しているのだと羨ましくも思われます。

息子の野球に触発され、最近読みなおしたのが、山際淳司の野球に関するノンフィクション。「スローカーブをもう一度」「八月のカクテル光線」「江夏の21球」などなど。

—— たった「一球」が人生を変えてしまうことなんてありうるだろうか。「一瞬」といいかえてもいい。

それは真夏のできごとだった。——

などの文章を思い浮かべながら、練習試合の応援に出かけている今日此の頃です。

（閑話休題）

さて、Jネットは平成九年からの七回目の総会を五月二十四日東京市ヶ谷で開催しました。大勢の会員の皆さんにお集まり頂きありがとうございます。上越からは部長以下六名が参加させていただきました。

お集まり頂いた会員の皆さんは、ふるさとへの熱い想いを胸に様々な分野で活躍しておられる方々で、お話を伺うと私共職員以上に上越を愛し、熟知し、また関心を持っておられます。

Jネットの目的の中に、会員の親睦の

ほか、ふるさと上越の応援団として上越市を支えていくことが謳われています。会員の皆さんには今後とも、上越が良くなると思われれることで、感じていること、考えていること、何でも事務局にお寄せ下さるようお願いいたします。

Jネットの会員は全国に広がっていますが、残念ながら総会・懇親会にご出席頂ける方は関東近圏の方々です。全国の会員の皆さんが一堂に会すれば楽しいだろうと思うのですが、物理的に困難です。せめて事務局として、月々の「たより」や年二回の「会報」の充実を図り、皆さんとの絆を強めて参りたいと存じます。

冒頭、たった「一球」が云々と書きましたが、会員の皆さんのJネットとの関わりが、運命の「一球」となれるよう、入会して良かったと思っていただけるよう、事務局として努力してまいります。今後ともよろしくお願いします。



桜—まほろばへの回帰

昭島市

佐藤光子（東城町二丁目出身）

故郷へ帰ってこいと桜かな

四月十一日、十二日、Jネットの企画に誘われ、今年も高田の花見に帰省する事が出来た。

桜の見頃に恵まれ、その花の下に莫座を敷き、故郷の酒やワイン、様々な心のこもった手料理に至福の時間を心ゆくまで過ごした。

我が母校どれも桜に囲まれて

雅で、しかも艶やかな高田城址の桜。特に、多感な中学校時代をこの城址の中の校舎で過ごした。部活帰りなどの薄墨色の夜桜は、殊のほか心の奥に言いがたい嬉しさと、仄かな哀しささえも混ざり合わせ、不思議な感動を与えてくれた。

ところが、今も同じだった。

この桜我が原風景の真ん中に

時間を遡るようにして、こうして生れ故郷へ事あることに帰り続けるのは、多分そうした自分の原風景に出会いたいらなのだろう。

川音やつくしかたくりふきのとう

宿泊の「くわどり湯つたり村」には、個人的にも、もう三回泊まっている。

鄙には稀な、おしゃれで美味しい料理、豊富な湯、それに行き届いた職員のもてなしが気に入っているからだ。

翌朝、枕の下を流れる雪解けの川音で目が覚めた。去年は寝坊し、朝の散歩に置き去りにされて悔やんだので、直ぐに

起き出す。

お蔭で、市の職員の方の案内で残雪を踏み、カタクリの群生を觀賞。土筆や蒔の薹を摘んで、村里の早春を満喫することが出来た。

黒々と幹の太さや雨の花

朝食後、再び高田へ。雨になる。埋蔵文化財センターを見学の後、岩の原ワインで昼飯。

駅へ向かう車から、雨に打たれる桜を見た。

大雪にも耐えた古木に咲く桜。なかなかの風情だ。それを眼裏に、自分への土産とした。



観桜会・桜城会

杉並区 内藤 實（本町六丁目出身）

生きてこそ 友の便りあり
友と集いて ふるさとなつかしむ

D2（末期）の告知で一度はサクラチルを覚悟したが、危機を脱しつゝ拙い一句を色紙にした。

爛漫の桜が、命が延びた喜びと生きる勇気を与えてくれた。

会場の忠霊塔広場には幼い頃の思い出が蘇る。「英霊にモクトウ」の号令が耳元にする。酷暑に腐った堆肥を諸畑に素足でモッコ担いで運ばされた。臭かった。それから間もなく終戦。あれ以来の忠霊塔広場である。

市長さんのお酌で会は盛り上り、戦争の嫌な思い出は消えた。ご近所だった玉井さんにご挨拶して、我がお袋を思い出した。手を引いて花を見せたのは何年前だったか。

玉井さんはお元気だから百歳まで頑張ってください。

温泉・山歩き・ワインを堪能して、山菜を家へ送った。埋蔵物の陳列館の説明が上手で四百年前にタイムスリップした。

一週間後に再び散りかけた校の中にある母校の小学・中学に来た。昭和二十六年に卒業した有志三十六名が集った。その中に小学時代に疎開して中学は東京に戻った連中も積極的に参加した。

元大使もいれば大会社の社長もいる。オスギさん（杉臣君）の作詞の桜城会歌を合唱した。五十年過ぎてても忘れていない。

アンコール！ まとめ役の福田君がいれば指揮棒を振っていた筈だ。直前に急逝した。

お呼びがかかる年齢となるが、まだ早

いとお断りして、来年も桜の下で唄いたい。

「オスギさん、今度は友を偲ぶ歌を作ってください。」

ふるさとの花見を二度もしたのでから、サクラサクとしよう。

市の職員の皆様及び小・中学の先生ありがとうございました。



春のふるさと交流会

横浜 日下部治子（南城町一丁目出身）

四月十一日、高田で満開の桜を見ることができました。各地の開花予想も今年はよく放送されておりましたが、遠く離れて住む者が花の一番美しい時に訪ねることなど簡単にできるものではありません。早くから観桜会の計画を立て、この日を選んで下さった事務局の皆様には感謝するばかりです。

高田駅から本町通りを三丁目まで、司令部通りを昨春完成の極楽橋に向い、集合場所のＪネットの桜の所まで懐かしいものを見つけながら楽しく歩きました。Ｊネットの桜は若木らしくすつくと立ち、満開の古木にならってきれいに咲いていました。

参加の皆様が揃ったところで輪になって座り、心尽しのご馳走をいただくうちに夕刻、木浦市長が参加下さり親しく歓談しました。

お堀端の道は子供の頃の通学路で、お花見の時には出店や人手で賑わう桜のトンネルを通り抜けてみたり致しましたが、桜よりも氷水屋さんや綿飴屋さんの手際のよい仕草に足を止めて見とれていたものでした。それも半世紀以上昔のことになりました。

今年の桜は花もちがよく、一週間後の中学同期会の日友人達とまたお花見が出来ました。

この次はふるさとのおんな季節にお訪ねできるか楽しみにしております。



観桜会に出席して

茅ヶ崎市

野田ヒロ子（本町六丁目出身）

この度は桜の木のおオーナーで成長振りを一目見たい母と観桜会初参加の妹夫婦と義妹で参加する事になりました。車窓から残雪の妙高山を眺め乍ら気分は上々、薄暮の会場に到着しました。心暖まる歓迎を受け輪の中に入れて頂きました。故郷の山菜の数々あさみの佃煮の作り方を聞き乍らしばみ舌鼓みです。心の込めた手料理を御用意下さった方々、大変有がとうございました。気持も一緒に頂戴しました。美酒に酔い乍ら夜桜見物これ以上の贅沢はありませんまい。その後わどろり湯ったり村へ。

朝食もそこそこにマイクロバスで埋蔵文化財センターへ。埋蔵文化センターでは館長さんの楽しい解説に魅せられました。開放的なスペースと作業もオープンになっていて、とても身近な感じがしました。私は陶芸が趣味ですが、器は特に興味津々、安土桃山時代の「織部御用徳利」は見事なものでした。次に訪れる時新しい出土品に会えると思うと自分のルーツに辿り着く気がして楽しみが増えました。一番楽しみにしていた桜の木オーナーの苗木会場に着きました。そこには、母の名前が刻まれたプレートがかかり、小さい乍ら可愛い花を付けていました。母は大満足、桜を囲んでの撮影は良い思い出になりました。岩の原葡萄園の白ワインは格別な味わいでした。

今回の観桜会では、最後迄時間を延長して熱く語って下さった木浦市長さん、

夢を頂きました。故郷の発展は私達の誇りです。関係者の皆様大変お世話になりました。夜桜を愛でる心、少し分かった気がします。機会が有りましたら、また、参加したいと思っています。

なごり雪 踏みしめのぼる 山はだに
ほのかに揺れる かたくりの花

（玉井輝二母）



田植えあれこれ

緑地区

小野塚いい子（本城町出身）

五月二十七日、Ｊ・ネットの農業体験・くわどり湯つたり村での田植えに参加しました。これまでに「ふるさと交流」で何度か訪れたのですが、今回は現地集合でした。上信越高速道で妙義山や浅間山を眺め、妙高山に迎えられて野尻湖を一周、そして日本海へ、途中の景色を楽しんで湯つたり村、集合時間の四時少し前に着きました。

Ｊネットからは七名の参加。夕食前、市役所の農林水産課の方々や地元ＮＰＯの青年達に観察林Ⅱ市民の森の案内を受け、散策を兼ねた学習会。自然林の豊かさと足に伝わる土の柔らかい感じは、コンクリート社会に住む者にとって癒しである。私は今回の目的の一つに材木池のほとりにある沢胡桃の太木に会うことがあった。予想どおり、この山の主のよう

に、うつそうとした水辺に堂々と枝を伸

うすきこき緑の中の沢くるみ 長き花房風にゆれおり

沈んだ池の色。生物はいないのでは思うと、案内人はブクブクした半透明のものを指差し「あれはサンショウウオの卵」と言う。ブナ林のふかふかした急坂の途中、私の背丈ほどの位置に熊のひつかり跡が大きく残っていた。雪のある時期のものとの説明。

ひと汗の後の温泉は嬉しい。さっぱりとして宴席へ。蒔・峯・若竹・山独活・野沢菜・茗荷・ハスとお膳の上は地元野菜での会席料理。満足度一〇〇％。もちろん、お酒もよし。参加者の自己紹介。田んぼをお話してくださる曾我文隆氏

の有機栽培・ハサかけ乾燥など稲作にこだわるお話を伺う。

米つくりの大変な作業の内、一番楽しい田植えを控え、早め？の就寝。

目を覚ますと天気はピーカン。めざす田んぼは棚田の一番高い所。私達を待つのかのように静かに水を張り、陽に輝いていた。初体験の人のために曾我さんより、苗の持ち方、とり方、植え方まで丁寧にご指導いただき、いざ。

私ははだして田に入り、目前に現れるかわいらしい蛭には驚き、苗には「しつかり大きくなるのよ」と話しかけながら、秋の収穫を楽しみにして作業をおえた。その後、曾我さんのご好意により山菜（蕨）取り。栗林の中の蕨は柔らかくて美味そう。私は二抱えも頂き、帰宅後キャラブキにしてご近所にもおすそ分け。喜ばれました。

私は今年、三ヶ所で田植えをしました。最初は地域の子供達の「一米っこクラブ」の手伝い。都下の平地の田んぼでした。手作業が終わったところへ、田植え機を使つてのデモ。それを見て「なんだよー最初からこれですればよかったのに」の声。

そして、私の生まれ故郷松之山でのグリーンリース会員としての田植え。こちらは孫五才と一緒の二度目の参加。前はおたまたじゃくしと遊ぶのがや

だった彼も今年はやる気十分。どうしても自分で植えたいと言う。二人で並んで田に入り、作業開始。後ろを振り返り「やったあー」の歓声を何度も繰返ししながら「この泥んこは濃いねえ」の名言を残し、ひと筋を植え終えました。彼には自分で作つた米で炊いたご飯、おかわりをして食べてもらいたい。八月の末には畦なぎ、十月には稲刈りと稲作作業をしに松之山に帰ります。とかく遠くなりがちな故郷を、グリーンリースを通じて、いつも身近に感じ、又町の人たちとも交流をもっていられることを嬉しく思っています。

この度のＪネットの農業体験は初めてで参加者も少なかったですが、これから、いろいろな期待感を込め、多数の方々に拡がっていったらいいなと思います。

空の色うつす水面に早苗おく



農業体験の田植えに参加して

横浜市 竹田ミチシ（上真砂出身）

去る五月二十七日、新緑かがやく季節を迎え、新幹線とほくほく線を利用して、一路上越へと向かいました。湯つたり村に到着後、「市民の森」を案内していただきました。この森は、市の水源地であり里山保全の為にNPOが中心となり、市民と共に活動されています。湧水池の周辺には、クロサンショウウオが生息し、その他にはウサギ、クマそして以前ここを訪れた時、ブナ林の林道でタヌキの足跡が残っていたのを覚えています。懇親会では、市の企画課、農林水産課の担当者、NPO法人、そして田植えの指導をして下さる曽我さんをはじめ、当日お手伝い下さる皆様と懇談しました。曽我さんの所では、安全を考慮され無化学・減農薬でコシヒカリを栽培され、はさ掛けによるおいしいお米づくりをされています。棚田で収穫されるお米は、昼夜の寒

暖の差が大きい為、旨みがあると言われてます。

翌二十八日、田植え日和となり、曽我さんの棚田で田植えが始まりました。田んぼは、すこく平らに均され、土の上には基盤の目のしるしがあり、初めての者にとっては、苗を一定の間隔で植えることができ、ほつとしました。苗分けに手間取りながら植えましたが、しっかりと地に根を張って生育してくれることを願っています。澄んだ空気と、山の清水に恵まれ、加えて曽我さんが丹精こめてくださいますので安心です。昼食は、棚田産のお米で作られたおにぎりをご馳走になりましたが、とてもおいしかったです。その後、曽我さんの栗林でフキ採りをし、そのフキをお土産に持ち帰り、我が家の食卓で山里の味をかみしめました。稲穂が実る秋には、稲刈りに来ます。そ

の頃には、栗も実り、小学生も訪れ、栗林は一層にぎやかになっていると思います。

今回のこの農業体験でお世話になりました皆様へ感謝します。湯つたり村の職員の皆様にはおいしい会席料理でもなしていただきありがとうございました。



私の戦中戦後雑記

杉並区

田村一郎（本町一丁目出身）



私は田村商店の長男として昭和二年二月本町一丁目で生まれ育ちました。

高田商工学校へ入りましたので、平和な時代でしたら家業を継いでいたと思いますが、戦時中は酒店の経営もだんだん難しくなり、一時休業せざるを得なくなってきました。

近所の一年先輩の倉田芳二君（戦後JALのパイロットとして活躍）の感化を受け通信省新潟航空機乗員養成所に入學しました。同期生に本町の青木ミシン店の青木一男君がいました。

父母も民間のパイロットなら軍隊よりも多少でも安心だと理解して呉れたようです。

最初はパイロットを目指して飛行機に乗りましたが、間もなく脚気を患い機関科（整備）へ廻されました。

新潟の養成所を卒業、松戸高等航空機乗員養成所（現航空大学の前身）に入りましたが一年少々で終戦になってしまいました。それでも繰り上げ卒業という事で、航空機関士と一等航空整備士の免状

を貰いました。

同期生の多くはその後民間の航空会社、自衛隊、運輸省航空局等、航空界で活躍しましたが私にはそのチャンスがありませんでした。終戦後高田へ帰りましたが隣家（薬局）の植木賢三さんに誘われ富士自動車追浜工場（現在の日産追浜工場）、鶴見工場、新橋本社に勤めるようになりました。この事がその後の私の人生を決定づけてしまいました。

その後独立して自動車、機械の部品販売を始め何とか四十年以上続けています。

Jネットワーク交流会には内藤實さんの勧めで昨年から二回続けて、又今年は総会に何れも夫婦で参加させて頂いております。

何時もの事ながら故郷の空行く風しとりとした空気に触れると乾いた心が和んでくるのを覚え満たされた気持ちになって帰ってくるのが常であります。

最後に市役所の係りの方々の献身的なご努力とお心遣いに厚くお礼申し上げます。

集団疎開

町田市 白山 堯（仲町三丁目疎開）



私が、高田に初めて着いたのは、昭和二十年三月十二日だったと思う。

駅前の広場は、踏み固められていたけれど、雪が二階の屋根と同じ高さまで積もっていた。

その時、私は七歳で集団疎開学童の最年少でした。ですから記憶も途切れ途切れです。

高田にお世話になった集団疎開の学校は、東京都葛飾区の学校で、私達の金町小学校は「安根（やすね）」旅館、植木屋、森屋の三旅館に分宿していました。

私達の教室は、大手町小学校に間借りしていました。

「安根やすね」から学校までの道は、二階の屋根の上を歩くわけですから、一般の家からは二階の窓から、昇って来る階段がついていました。

地上の道は雁木しかなく、向う側に移るには、雪のトンネルを使っていました。

雪がとけますと、「安根（やすね）」から妙高が綺麗に見え、時には望郷の念に

かられました。

南葉山のへの遠足では、スキー伝来の地と聞いて感心もし、暑かったことが今でも思い出される。

戦争が激化するに伴って、高田よりもっと安全な所に移そうとしたのか、夏になった時、更に疎開することになって高志村に移った。宿はお寺でしたが、残念ながら名前がどうしても出て来ない。機会を作ってもう一度訪れたい。

八月十五日、炎天下、聞きとれない玉音放送を高志小学校の校庭で聞いた時、足が靴の中のノミにやられ、気が遠くなる程かゆかった。

大学に入学した時、六十名のクラスで、内藤君、米持君と二人も高田出身者がいたので珍しくも、懐かしく感じた。

近頃は、年に一度両君とお会いする機会があるので、高田が身近に思える。

玉露とお茶漬け

さいたま市

安藤三郎（東本町三丁目出身）

昭和二十二年二月畳工事の打合せで南本町のWさんを訪ねた時、出されたお茶に口を付け父がよく口にして居た事を真似「アツイ」と云った一言が玉露との出会いとなった。

「オマンわかんなるね。少し待っててくんない」と云われ暫く待つと、色鮮やかな緑と目積表の畳が敷かれ、程よく暖められた座敷へ通された。そこで玉露の栽培、製茶、淹れ方、それを口にするとき一杯に拡がる香り、又その香りが眉間まで透るなど諸々を聞かされ、茶殻はおひたしなどにして捨てないとも云われた。

大きな急須に針のように細い黒に近い緑の茶葉を半分位入れ湯をまじした湯を茶葉がやっと被る位に注ぎ、暫く待つて茶碗に注ぐのだがそれは正しく露の玉が落ちるようだった。お茶は碗底に僅か

しかなかったが、香りが漂い口にした瞬間眉間迄透ると云われた事を実感した。家に帰っても息を吐くとフツと香りが口に拡がりそれが半日も続くと言明されたが、十時間程確かに続いた。

昭和二十五年、研修が終って長野へ戻ると間もなく戦災復旧の蒸気機関車庫の設計を命ぜられ、打合せに東京出張した折芝浦で夕食を頂いた。その時「赤だしになさいませうか。お茶漬けがよろしいですか」と訊かれた。赤だしとは何の事か知らなかったが、お茶漬けなら沢庵でバリバリそしてサラサラだからとお茶漬けにした。大き目の茶碗の蓋を取ると先ずお茶の香りがして、口をつけると醤油みたいな美味い味がした。こんな美味いものがあるのかと驚いてもう一杯と思つたが、グツと堪えた。醤油とお茶がお茶漬

けの極意と思ひ家に帰ると御飯に醤油とお茶を注ぎ蓋をして、暫くおき夢もよう一度と蓋を取った。すると嫌な匂がして口をつけるとゲーとなりそんな味がした。極意は間違ひだった上に醤油も多く焙茶も濃くした為に一層変なものになったのである。食糧難の時代だから捨てる訳にもゆかず何回もお湯で漉ぎ我慢して喰べた。

長野の料亭の方にその話をしたら「鰯節の赤みと塩だけでだしを取るのです。海苔と山葵もあつた筈ですが何れも吟味しなければなりません。今の所私共ではできません。但し、醤油と味の素と熱湯でも可成り近いものにはなります」と教えられた。

私は何年に一度かは玉露を買って居た。昭和年代の茶葉は針のようだったが近頃のは平たくなっている。手揉みから機械揉みへ変つたせいかも知れない。あれから五十年も過ぎたが全国的に名の通つた老舗の静岡のあのお茶屋さんに行けば願ひは叶うかも知れない。何時かは心掛けて居る。

何回か鰯節と大根山葵を載せお湯を注ぎ、全部喰べてしまふのだが満点に近いのは一回だけだった。最近何気なく「ほんだし」と云う鰯節のフレークの調味料でやつて見たら五十年前のあの味に大変

近いものになった。第一次石油ショックの時来日したヤマニ石油相が夫婦羅に塩を振りお茶を注いでサラサラとやつて、日系人をびつくりさせたお茶漬けもある。米糠をタツブリ使つた沢庵でバリバリサラサラもよし、即席の各種お茶漬けもあるが皆さん一度お試し下さい。吟味された海苔と山葵があれば一層なる程と思われるでしょう。



懐かしき幼い頃の思い出

川崎市 坪木良雄（高士村飯田出身）

故郷が発展的に変遷することは誰しも否定する人はいないと思います。むしろ大いに喜ぶべきことでしょう。しかし、故郷を離れて五十有余年、ノスタルジアを感じるのは私だけではないと思う昨今です。あの頃、高田農学校へ通学する約十キロの道のりを自転車ならば四十分の所を歩けば二時間半かかります。上級生ともなると親に「歩いて通学しろ」と云われ止むなく徒歩で通った記憶が生々しい。

朝五時に起きてお袋が作ってくれた朝食もそこそこに巻脚絆に地下足袋姿で颯爽と家を後にしたのですが、何せ朝食が早いと腹が減って昼食時間まで待たず「いわゆる早や弁」を喰って昼食時には弁当箱が半分空っぽの始末、全くの成長盛りだったのでしょうか。時にはそれが噂になり、急に弁当検査なるものがあった。

で、先生が弁当袋を手につぶらせた時の「冷や汗三斗」。空っぽの時もあれば片下りの時もあって、これには先生も叱ってはみたものの事情を察してか苦笑いをしていました。

当時の農村の生活は苦しさの上に貧しさも加わって小さい子供でも一家の労働力として当てにされており、学校から帰ると、早速「こびり（腹）こしらえの間食」を食べて田圃へ飛んで行ったものです。しかし、そんな厳しかつた事ばかりではなく、それなりに楽しかったことも多かったような気がします。

その頃の水田は自然の地形そのままで川縁には猫柳やら水草がたくさん生い茂っていて雑魚の絶好の住み家だったのか鰯、鮎、タナゴ、鯉などが沢山いて子供でも簡単に箆で掬って捕らえられました。私はその雑魚ひきが好んで御袋が大

事にしていた新調の箆を持ち出してはよく叱られたものです。また、七月から八月の土用の暑い頃は稲も大きく生長すると同時に鰯も大きく肥えているのでよく柳川に使う鰯とりが行われていました。夕方になると田螺を潰してその中へ炒った米糠をまぶしたものを「つづ」竹を漏斗状に網んだ仕掛けの中へ団子状にして入れ、鰯の居そうな田圃に仕掛けておき、翌朝「つづ」を持ち上げた時の大漁の感触は格別なものでした。また、特に雪融け後の田圃の排水口の下を掘じると柳鰯（小さい鰯）が沢山いて手で拾うように簡単に捕えたことが昨日のように感じられます。



市町村名で思うこと

川崎市

相川義夫（本町五丁目）

最近、行政改革の一環として市町村合

併が多く見られるし、これからも益々多くなると思われるが、その善し悪しは別にして、合併後の市町村名を決めるについてあまりに無神経というか、感性的の貧困さ、低級さに憤りを感じる。勿論、我がふる里「上越」(本当は使いたくない。)についても然りである。たかが名前と言ふなかれ。確かに名というものはそのものに付けられた称号であり、単なる記号であるに過ぎないかもしれない。併し人

問が豊かな感性と情愛を持ち合わせた高尚動物である限り、名というものに対する愛着の重さは非常に大きいのである。それは歴史や文化という長い間の堆積が心うす高く積みまれ、決してそこから逃れられないからである。考えて見て貰いたい。例えば、飯に鎌倉、軽井沢、箱根、日光等の名前が消滅したら地域の人の

や全国民はどう思うだろうか。

新しい市町村名を決める際にいつも問題になるのは、合併する市町村が互いに自分の名を相手の名に変えることに強い拒否反応を示すことであらう。その結果差し障りのない極めて陳腐な名前に落ち着くことが多いのである。併し行政当局・関係者に言いたい。何れかの従来の名前を使うにせよ、新しい名前を付けるにせよ、無味乾燥な名だけは避けて貰いたい。

翻つて我がふる里を考えても、高田・直江津の名が消えて、「上越市」、これはあまりにも情感に乏しい。高田・直江津以外にするにしてももっと個性的なアート感溢れる名がないものか。再度、市町付合併があるならばぜひ考えて欲しいものである。ついでに更に提案したい。その際、呉服町、桶屋町、職人町等、昔の



町名を復活したらどうだろうか。東京の
人形街、馬喰町、八丁堀等、たまらなく
魅了されるからである。これが実現したと
したら、住民もきつと喜ぶと思うし、新た
な市の発展のきっかけになるのではない
か。郷土出身者としてもまことに愉快な
気分になる。これらは無理な願いとい
うものだろうか。



ふるさとの
美味しいお米を食卓へ



上越産
こしひかり



〒942-0061 新潟県上越市春日新田5-3-11

0120-81-1093 0120-17-1093

あの頃に帰る…
風も、匂いも懐かしい
山里の原風景
日本の本当の田舎がここにある



ブナの森に抱かれた、静寂の温泉・宿泊エリア

くわどり湯たり村

上越市皆口601

tel. 025-541-2611 fax. 025-541-2616



会の運営に
ご協力いただいている
特別賛助会員です。

上越を読む

月刊 **JACK LAND**
上越エリア情報誌 ジャックランド

TEL 025-524-4275 FAX 025-524-4451



創業明治23年 伝統の味 岩の原ワイン

～日本の本格的ワイン発祥の地～

株式会社 **岩の原葡萄園**

TEL **025-528-4002** 新潟県上越市北方1223番地
URL <http://www.iwanohara.sgn.ne.jp/>

日本の本格的ワイン発祥の地「岩の原葡萄園」は、明治23年の創業以来、3世紀にわたって高品質のワインを世に送り出してきました。
お蔭で上越市の代表的な特産品として、多くの方にご愛飲いただいております。
さて、弊社では、遠方にお住まいでお近くに岩の原ワイン取扱店がない方に向けて、『岩の原ワイン みゆき会』の会員を募集いたしております。
ワイン1万円(税別)以上のご注文で送料無料、ご入会プレゼントや、お買上げのポイントによるプレゼントなど、色々特典がございますので、Jネット会員の皆様も是非ご利用下さい。
お問合せ 株式会社岩の原葡萄園 025-528-4002



今年度中に上越地域での
販売率 **20%** を達成します!

八八〇部

(※発行部数 H15 年7月現在)

毎日、発行しています。

地域の元気を刺激する

日刊 **上越タイムス**

購読料 **2,575円**(郵送料込)

お申込みは...

0120-17-4243
times@joetsu.ne.jp

上越タイムスの本音... ●「じょうえつ野の花」 ひっそりと咲き、やさしく語りかける野々花たち160点収録 風流
芸術家・文・小林金太郎 著2,700円(税・送料別) ●「上越の史跡と人物」 上越地方の12世紀の史跡と人物を語り
やすく解説した一冊 花ヶ谷盛明 著1,900円(税・送料別)



環境との調和で新たな価値を

FUKUDA CORPORATION



株式会社

福田組

代表取締役副社長
営業本部長

田村 春男

東京本社

〒162-8411 東京都新宿区市谷本村町3-26
TEL 03-3269-4711 FAX 03-5261-5387

★特別賛助会員とJネットはお互いに協力しながら良い街づくりをめざします。

★Jネットでは会の運営に協力していただけの特別賛助会員を募集しております。

★皆様のご存知の企業・団体等で賛助会員をお願いできるようなところがありましたら是非ご紹介ください。

○上越の催し物

ふるさとのお祭りに、帰省の際には是非ご参加ください。

■「上越まつり」7月23日(水)～29日(火)

(高田地区)

- ・23日 花火大会
- ・25日 大民踊流し
- ・26日 御輿の川下り

(直江津地区)

- ・26日 花火大会
- ・28日 大民踊流し
- ・29日 お饞米奉納



■「はすまつり」8月1日(金)～15日(金)

- ・2日、9日 蓮の花鑑賞(朝6:30～7:30)



■「謙信公祭」8月16日(土)～17日(日)

- ・奉納米合戦
- ・謙信公「義の塩」献上儀式
- ・出陣行列
- ・武てい式
- ・大民踊輪おどり



○上越市の施設

Jネット会員は上越市の施設を割引で利用できます。お盆などで上越に帰省された際には市の施設をご利用してください。

- 市民プラザ
- 市民いこいの家
- 水族博物館
- 高田城三重櫓
- 雁木通りプラザ
- オールシーズンプール
- 海洋フィッシングセンター
- 金谷山スーパーボブスレー
- リージョンプラザ上越・上越科学館
- 上越市立総合博物館
- 雁木通り美術館(無料)
- 埋蔵文化財センター(無料)
- 日本スキー発祥記念館
- 上越市立水族博物館
- 小林古径邸



おねがい

■会員募集のお知らせ

Jネットも7年目を迎え、これからますます充実した活動を行うためにも、より多くの方にネットワークに参加していただく必要があります。是非、皆さんのご親戚やご友人にJネットをご紹介ください。

■お届け先が変更になった方はお知らせください

転居により住所が変更になった場合は、新住所を事務局までお知らせください。(電話、FAX、E-mailでも結構です。)

■皆さんの声をお聞かせください

ふるさとに寄せる思いや思い出など皆さんからの便りをお待ちしています。また、Jネットの運営に対するご意見ご要望も合わせて募集しています。

編集後記

会報編集中の只今は、梅雨の真う最中ですが、皆様お変わりありませんか。故郷では田植えも終わり、緑一色の懐かしい田園風景を見せてくれていると思います。

四月十一、十二日の、ふるさと交流・親睦会、五月二十四日の、総会と二十七、二十八日の、ふるさと農業交流・田植え体験ツアーなどJネットは騒音の都会人に故郷の風を運ぶために一生懸命です。

今回の会報は今年度前半の行事を中心に、写真をたくさん載せて表現いたしました。

少しでもふるさと上越の風を感じて頂けたら幸いです。

時間の制約で見過した点や誤り等が多々あると思いますがご容赦の程お願い致します。

この会報がお手元に届く頃には、真夏になっている事でしょう。汗をたらしてお読みください。

Jネットの発展にご協力下さっている方々に感謝しつつ、会員皆様の健康をお祈り申し上げます。



●発行

ふるさと上越ネットワーク事務局(上越市企画部 企画課内)

〒943-8601

新潟県上越市木田1-1-3

TEL.025-526-5111 FAX.025-526-8363

E-mail: j-net@ml.city.joetsu.niigata.jp

運営委員会事務局

〒150-0011

東京都渋谷区東1-26-30 渋谷イーストビル

(株)社会システム研究所内

TEL.03-3499-8299 FAX.03-3486-0986

URL <http://www.joetsu.gr.jp/>

【情報をお待ちしています】 TEL.025-526-5111(Jネット事務局)
